

松枯れ、ゴミ投棄をなくす＜緑の保安官（仮称）＞制度を

1. 松枯れ被害の早期発見、迅速処分態勢づくり



管理放棄された土地にある松枯れした木を放置しておく、周辺の松や個人邸の松にも被害が広がる。

松の葉が白茶け出し、被害が顕になった時点で、被害の拡散を防止するために、管理者へ伐採、焼却処分を勧告できる行政制度が必要。

市内の全域を調査するには、市民の支援が不可欠。そのため監視員としての役割と管理者不在の土地へ立入り、支障木の除去権をもつ市民組織＜緑の保安官＞を任命、組織化できないものでしょうか？

2. カミキリが飛び出す前、冬の間焼却処分



松枯れはマツノザイセンチュウによる。この線虫はカミキリ虫を媒介して広がる。

そのメカニズムは左図のとおり。

線虫を体内にかかえたカミキリが成虫になり、枯れ松から飛び出し、被害を拡散させる春までに被害にあった松を伐採、焼却処分できれば松枯れ被害を抑制。

1年以上放置した後、伐採したのであれば、線虫をかかえたカミキリが飛び立った後で、他の松へ移りすみ、後の祭りである。

3. 空き家内の支障樹木やゴミ投棄もチェック



空き家内の松枯れが周辺の松に悪影響を与えている。

これ以外にも、茂った樹木が道路にはみ出し、通行の支障になったり、ゴミの投棄場所になったりし危険、不衛生な状態で、地域の環境悪化の元凶なる。

ニューヨーク市の「割れ窓理論」の実証結果を学び今こそ、行政、市民が立ちあがる時ではなからうか。